



システム タスクの実行

この章では、WCS を使ってシステムレベルのタスクを実行する方法について説明します。この章の内容は、次のとおりです。

- [WCS データベースへのシステム コンポーネントの追加 \(P. 4-2\)](#)
- [Location Appliance の追加機能 \(P. 4-4\)](#)
- [WCS を使ってシステム ソフトウェアを更新する方法 \(P. 4-5\)](#)
- [WCS を使用しての長いプリアンプルの有効化 \(SpectraLink 社の NetLink 電話用\) \(P. 4-6\)](#)
- [RF キャリブレーション モデルの作成 \(P. 4-7\)](#)

WCS データベースへのシステム コンポーネントの追加

この項では、コントローラと Location Appliance を WCS データベースに追加する方法について説明します。

WCS データベースへのコントローラの追加

コントローラを WCS データベースに追加する手順は、次のとおりです。



(注)

セキュリティを向上させるために、コントローラを専用のサービス ポートで管理することをお勧めします。ただし、サービス ポートがないコントローラを管理する場合（2000 および 2100 シリーズ コントローラなど）、またはサービス ポートが無効になっているコントローラを管理する場合は、コントローラ管理インターフェイスを通してコントローラを管理する必要があります。

- ステップ 1** WCS ユーザ インターフェイスにログインします。
- ステップ 2** **Configure > Controllers** の順にクリックして、**All Controllers** ページを表示します。
- ステップ 3** **Select a command** ドロップダウン メニューから、**Add Controller** を選択し、**GO** をクリックします。
- ステップ 4** **Add Controller** ページで、コントローラの IP アドレス、ネットワーク マスク、および必要な SNMP 設定を入力します。
- ステップ 5** **OK** をクリックします。コントローラに接続している間、WCS に **Please Wait** というメッセージが表示され、現在のコントローラ設定が WCS データベースに追加されます。次に **Add Controller** ページに戻ります。
- ステップ 6** WCS によって、入力した IP アドレスでコントローラが発見されなかった場合は、**Discovery Status** ダイアログに次のメッセージが表示されます。

No response from device, check SNMP.

次の設定を確認して、問題に対処します。

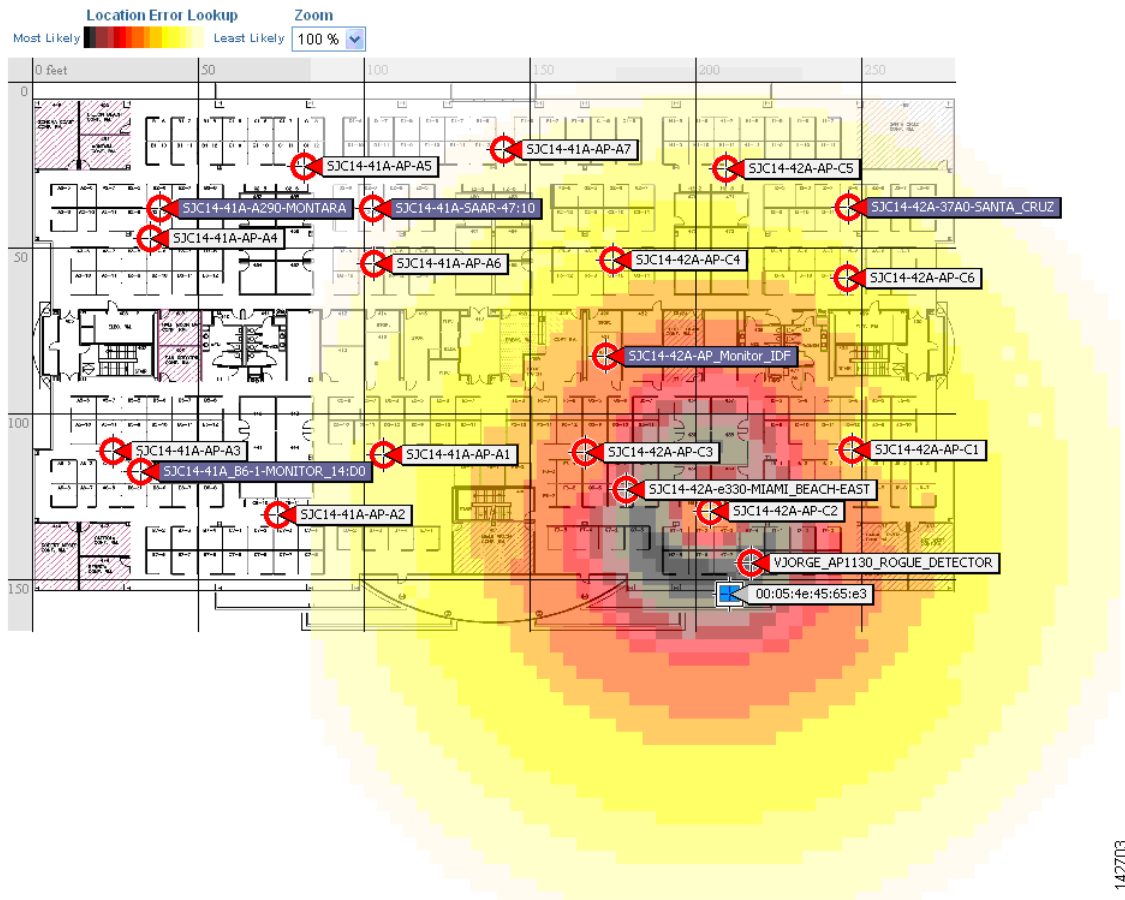
- コントローラのサービス ポートの IP アドレスが正しく設定されていない可能性があります。コントローラのサービス ポートの設定を確認してください。
- WCS がコントローラに接続できなかった可能性があります。WCS サーバからコントローラに ping できることを確認してください。
- コントローラの SNMP の設定が WCS で入力された SNMP の設定と一致していない可能性があります。コントローラの SNMP の設定が WCS で入力された SNMP の設定と一致していることを確認してください。

- ステップ 7** 必要に応じてさらにコントローラを追加します。

WCS データベースへの Location Appliance の追加

Location Appliance を WCS データベースに追加するには、『Cisco Location Appliance Configuration Guide』の第2章に記載されている指示に従ってください。Location Appliance を使用しない WCS では、オンデマンドロケーションまたはクエリーベースのロケーションがサポートされています。このバージョンでは、各シングルデバイスが設置されているフロアにアソシエートされたフロアマップ上に配置されているので、シングルデバイスのロケーションが一度に視覚的に表示されます。このバージョンのロケーション機能付き WCS を使用したロケーション判別のキャプチャを、[図 4-1](#) に示します。ここでは、青いアイコンが表示された場所のみに Wi-Fi クライアントデバイスが存在します。

図 4-1 ロケーション判別



142703

Location Appliance の追加機能

Cisco 2700 シリーズの Location Appliance は、Cisco Wireless LAN Solution インフラストラクチャの中で動作します。Location Appliance は、Cisco の無線 LAN コントローラおよびアクセス ポイントを使用して履歴ロケーション データを計算、収集、保存することによって無線デバイスの物理位置を追跡します。

最大 2,500 のラップトップ クライアント、パームトップ クライアント、VoIP 通話クライアント、アクティブな Radio Frequency Identifier (RFID; 無線周波数 ID) アセット タグ、不正なアクセス ポイントおよびクライアントを追跡できます。

選択可能フィルタを利用すると、収集されたデータの中で特定の要素を検索してマップ上に表示することができます。たとえば、生物医学の研究所などでは、特定のフロアのアクセス ポイントやクライアントではなく、重要な医療機器を追跡するアクティブな RFID タグだけを表示したいという要件が考えられます。

WCS を使ってシステム ソフトウェアを更新する方法

WCS を使って、コントローラ（およびアクセス ポイント）のソフトウェアを更新する手順は、次のとおりです。

- ステップ 1** **ping IP アドレス** と入力して、WCS サーバがコントローラと通信できるかどうか確認します。外部 TFTP サーバを使用している場合は、**ping IP アドレス** と入力して、WCS サーバが TFTP サーバと通信できるかどうか確認します。



(注) コントローラの Distribution System (DS; ディストリビューション システム) ネットワーク ポートを経由してダウンロードする場合、DS ポートはルーティング可能なので TFTP サーバは同じサブネット上にあっても、別のサブネット上にあってもかまいません。

- ステップ 2** **Configure > Controllers** の順にクリックし、**All Controllers** ページに移動します。

- ステップ 3** 目的のコントローラのチェックボックスをオンにして、**Select a command** ドロップダウン メニューから **Download Software** を選択し、**GO** をクリックします。Download Software to Controller ページが表示されます。

- ステップ 4** 組み込みの WCS TFTP サーバを使用している場合は、**TFTP Server on WCS System** チェックボックスをオンにします。外部 TFTP サーバを使用している場合は、このチェックボックスをオフにして、外部 TFTP サーバの IP アドレスを追加します。

- ステップ 5** **Browse** をクリックして、ソフトウェア更新ファイル（たとえば、2000 シリーズ コントローラの場合は、**AS_2000_リリース番号.aes**）を参照します。このファイルは、TFTP サーバによる使用に対して設定されたルート ディレクトリにアップロードされます。別のディレクトリに変更できます。



(注) コントローラのソフトウェア ファイルを修正する必要があります。

- ステップ 6** **Download** をクリックします。WCS によってソフトウェアがコントローラにダウンロードされ、コントローラによってコードがフラッシュ RAM に書き込まれます。WCS によってこの機能が実行されるたびに、その進捗状況が **Status** フィールドに表示されます。

WCS を使用しての長いプリアンプルの有効化 (SpectraLink 社の NetLink 電話用)

無線プリアンプル (ヘッダーとも呼ばれる) は、パケットの先頭部分にあるデータのセクションです。これには、パケットを送受信する際に無線デバイスが必要とする情報が格納されています。短いプリアンプルの方がスループットパフォーマンスが向上するため、デフォルトではこちらが有効になっています。ただし、SpectraLink 社の NetLink 電話などの一部の無線デバイスは、長いプリアンプルを必要とします。

無線 LAN 上にある SpectraLink 社 NetLink 電話の動作を最適化するために、WCS を使用して長いプリアンプルを有効化する手順は次のとおりです。

- ステップ 1** WCS ユーザ インターフェイスにログインします。
- ステップ 2** **Configure > Controllers** の順にクリックし、**All Controllers** ページに移動します。
- ステップ 3** 目的のコントローラの IP アドレスをクリックします。
- ステップ 4** サイドバーで、**802.11b/g > Parameters** の順にクリックします。
- ステップ 5** **IP Address > 802.11b/g Parameters** ページで短いプリアンプルが有効になっている場合は、次の手順に進みます。短いプリアンプルが無効になっている場合 (つまり長いプリアンプルが有効な場合)、コントローラはすでに SpectraLink 社の NetLink 電話に対して最適化されているため、以降の手順を実行する必要はありません。
- ステップ 6** **Short Preamble** チェックボックスをオフにすることによって長いプリアンプルを使用可能にします。
- ステップ 7** **Save** をクリックして、コントローラの設定をアップデートします。
- ステップ 8** コントローラの設定を保存するには、サイドバーで **System > Commands** の順にクリックし、**Administrative Commands** ドロップダウン メニューから **Save Config To Flash** をクリックして、**GO** をクリックします。
- ステップ 9** コントローラをリブートするには、**Administrative Commands** ドロップダウン メニューから **Reboot** をクリックして、**GO** をクリックします。
- ステップ 10** 次のメッセージが表示された場合、**OK** をクリックします。

Please save configuration by clicking "Save Config to flash". Do you want to continue rebooting anyways?

コントローラがリブートします。これにはしばらく時間がかかる場合があります。その間に WCS はコントローラから切断されます。



(注) CLI セッションを使用してコントローラのリブートプロセスを表示できます。

RF キャリブレーション モデルの作成

ビルディングの1フロアまたは複数フロア全体におけるクライアントおよび不正アクセス ポイントの位置の正確さを WCS Location で向上させる場合は、物理的に収集された RF 測定値を使って位置アルゴリズムを微調整する RF キャリブレーション モデルを作成するオプションがあります。校正されたフロアと同じ物理レイアウトのフロアがビルディング内に複数ある場合、同じ RF キャリブレーション モデルを他のフロアに使用することで、他のフロアを校正する時間を短縮できます。

キャリブレーション モデルは、別々のフロア領域に適用できる測定済みの RF 信号特性を使用して RF オーバーレイとして使用されます。これによって Cisco WLAN Solution インストール チームは複数フロア領域の1フロアをレイアウトし、RF キャリブレーション ツールを使用して新しいキャリブレーション モデルとしてそのフロアの RF 特性を測定して保存し、そのキャリブレーション モデルを同一の物理レイアウトを備えるすべての他のフロアに適用できます。キャリブレーションの方法については、第5章を参照してください。

